

平成 28 年 瞽女唄ネットワーク 結成 25 周年

# 秋の瞽女唄公演 プログラム

第 15 回  
秋の瞽女唄公演

祭文松坂  
赤垣源蔵  
ほか



平成 28 年  
10 月 23 日 (日) 午後 1 時半～

会場 長岡市弓町「アトリウム長岡」

電話 0258-30-1250 入場料 1000 円

画：田辺昭成

日時 平成28年10月23日(日) 午後1時30分～3時30分頃

会場 アトリウム長岡 長岡市弓町1丁目5-1

電話 0258-30-1250

(長岡駅東口より右手の台町通りを直進し徒歩10分)

主催 瞽女唄ネットワーク

出演 越後瞽女唄・葛の葉会

## 【演目】

- |                |         |                |
|----------------|---------|----------------|
| 1. 口説「正月祝い口説」  |         | 須藤鈴子           |
| 2. 祭文松坂「赤垣源蔵」  |         |                |
|                | いとまごいの段 | 一の段 室橋光枝       |
|                |         | 二の段 須藤鈴子・金川真美子 |
|                |         | 三の段 金川真美子      |
|                |         | 四の段 金川真美子      |
| 3. 民謡「伊勢音頭くずし」 |         | 室橋光枝           |

## 【瞽女唄解説】

### 1. 口説「正月祝い口説」

めでたづくしのことほぎの唄。口説の詞句は七七調。出だしのひと言以外は、ふた言で一節を構成。三味線は二上がり。

越後の正月は、雪が深いところでは戸ごとに歌いつぐ門付けは不可能。親しくしている家にだけ上がり、家族の人たちに新年の挨拶をし、居間や座敷でこの祝い唄や春駒、三河万歳、その他の所望の唄を歌った。この風習を「春語り」と言った。

雪の降らない関東地方の人たちは、口説を好んだ。口説が歌われないと関東の旅商売はできなかった。瞽女が正月に訪れると、農家は神棚に蚕の種紙を飾っているが、そこにこの唄を歌ってほしいと頼んだ。春蚕はるごが生まれた頃に行くと、蚕棚のところに導いて、ここに歌ってくれと言う人が多くいた。蚕が太り、良い繭がたくさん取れるのだという。

### 2. 祭文松坂「赤垣源蔵」 いとまごいの段

赤垣源蔵は、播州赤穂城主浅野内匠頭長矩の仇に報いるため、元禄 15 年 (1702) 12 月 14 日夜、江戸本所松坂町の吉良邸を襲った 47 士の 1 人赤垣源蔵あかいはにに擬した物語上の人物。講談、浪曲などで取り上げられたが、講談の義士銘々伝「赤垣源蔵徳利の別れ」が有名。歌舞伎でも河竹黙阿弥が「仮名手本硯 高島」(通称、赤垣源蔵)に脚色し、安政 5 年 (1858) 5 月、江戸市村座で上演。この物語は瞽女も取り入れ、「いとまごいの段」として語ってきた。

赤垣源蔵は、吉良邸討入りの前日、雪の降りしきる中、いとまごいのため兄塩山伊左エ門を訪ねたが、不在。兄の紋服の前に大徳利をそなえて別れを惜しむ。講談では、その後に妹が嫁いだ田村縫右エ門を訪ねたが、彼に浪士の不甲

斐なさをなじられる。その義父に、近々旅をするので別れの挨拶に来ましたと言うが、討入りすることは明かさない。それでは酒をと勧められ、酒の飲めない源蔵が珍しくも数杯受け、別れを告げて立ち去った。義父はその後討入りを知り、源蔵が今生の別れに来たことを知り、大いに悔やんだという話。

瞽女唄「赤垣源蔵」は、播州辰野城主脇坂淡路の留守居役、塩山伊左エ門の弟とされる。討入りの前夜、兄にいとまごいに来たが、兄は公用で出かけて不在。帰りを待って酒を飲み、やがて高いびき。夕方目を覚ましたが、兄はまだ帰らない。下女のおすぎに頼んで兄の普段着を出してもらい、それを柱の釘にかけて持参した酒肴をそなえ、「兄上、召し上がれ、お流れ頂戴致します」と言って酒を飲み、急いで雪の中に出て行った。伊左エ門はひと足ちがいで帰ってきた。眠りに就いたが眠られない。外で窓下を駆け行く人が、浅野内匠の家来が吉良の屋敷に討入りし、めでたく本懐を遂げられたという話を聞く。伊左エ門は急いで中間ちゅうげんの市助を呼び、「見届けて参れ」と吉良邸へ走らせた。

### 3. 民謡「伊勢音頭くずし」

伊勢音頭は、三重県伊勢地方で生まれた民謡の総称。宇治山田市の古市の盆踊り唄や川崎音頭、農村の祝儀唄が母胎といわれるが、古市の遊郭で歌われ、文化（1804～14）頃から有名になった。伊勢神宮に詣でた人たちのために神宮中心に歌われたものもあり、瞽女もよく歌った。旅の宿へ泊めてもらったお礼に「朝立ちの唄」として歌う瞽女が多くいた。

### 葛の葉会プロフィール

平成7年9月、瞽女唄ネットワーク主催の「瞽女唄教室」で師匠竹下玲子氏より4年間指導を受けた人たちが、平成11年9月「越後瞽女唄・葛の葉会」を結成、今日にいたる。現在会員4名。

室橋光枝（長岡市在住）、須藤鈴子（長岡市在住）、横川恵子（南魚沼市在住）、金川真美子（長岡市在住）

**お問合せ 警女唄ネットワーク事務局**

〒940-0063 長岡市旭町 2-1-3 405 佐々木東一

電話 0258-34-7584 FAX 0258-34-7590

■警女唄ネットワークのホームページを是非ご覧ください。

「警女ふたたびの道」で検索するか

または URL : <http://goze.holy.jp/> を打ってください。